（様式第８号）

事業報告書（令和２年度）

事業名　みんなで考える地域の防災

団体名　OKAZEN　　担当者名　山田　真珠

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

○定例会

日程：随時実施

主に防災プログラム開発イベントに向けた企画・準備を実施。

イベント開催後は、防災プログラムの開発を進めた。

会議の様子

○防災プログラム開発

日程：12月６日（金）、２月１日（土）

参加者：６名

内容：

大学生や地域住民を集め、自身が受けてきた防災教育、防災教育のイメージ等について話し合いを行った。加えて、これまでの生活を見返し岡山県や岡山市で必要とされる、求められる防災教育や素の要素についても話し合いを行った。

（様式第８号）

【話し合いテーマ例】
・自身が受けた防災教育の内容
・防災教育のイメージ
・どの災害を取り扱うか
・どの様な手法で授業/プログラムを展開していくのか
・対象とする年代
・自分たちが子どもたちに伝えたいこと
・防災、災害で伝えるべきだと考える内容・ポイント　　等

以上のことを踏まえて、これまでの自身の経験等を踏まえた上で岡山県・岡山市で行うべき防災教育の内容や手法について意見を出し合った。

当日の様子

○防災教育プログラムの実施
開発した防災教育プログラムを２月に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの関係でイベントを中止。

２．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

本事業において、取り入れた ESD の視点は、以下の２点である。
④質の高い教育をみんなに
⑪住み続けられるまちづくりを
本事業では、防災教育プログラムの開発・実施を目的としているため、特に「④質の高い教育をみんなに」に注目して活動を進めた。また、本団体には、教育学部に所属するメ

（様式第８号）

ンバーが多くいるため日頃の学びを活かした防災教育プログラムの開発を目指した。

大学生を対象に行った防災プログラム開発イベントでは、これまでの自身の生活を振り返ったり、自身の防災意識について考え直した。また、地域を構成する一人としてどの様な行動ができるのか、住んでいる地域の特色を踏まえた防災教育プログラムとは何かについて考えを深めた。

イベントを通して開発した防災教育プログラムの内容については、ただ防災の知識を考える・伝えるだけでなく、得た知識や情報を基に地域でどの様に暮らしていくのか、自身の地域ではどのような災害が起こりうるのかについて考える。また、プログラムで学んだことを日々の生活でも実践できる・考え続けられる仕組みを取り入れることを要点としプログラムの開発を進めた。

防災・減災について考える上では、「地域の特色や特徴を理解すること」も重要なポイントになると考える。本事業を通して、防災に関する知識の向上や向き合い方だけではなく、地域を理解することで地域社会の抱える問題解決に役立てるきっかけになり得る可能性もあると考える。

３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

本事業の成果は、主に２点である。

第一は、異なる年代の人々が語り合う機会を提供できたことである。本事業で企画したイベントの主な参加者は大学生だが、地域住民の方にも参加していただくことができた。学生と地域住民という普段関りの少ない人々が語り合うことで他の世代がどの様に考えているのか、地域の特色や過去にあったことなどを知ることができた。近年、コミュニティの希薄化などが問題視されている現代社会においてこのような機会は非常に重要な役割を担うと考える。

第二は、災害・防災・減災について考える時間を設けることができたことである。災害は、いつ起こるかわからないものである。そのため、防災意識を高めようと言われてもどの様にしたら良いか分からない。非常時に取る行動について考えてみても実際におきたら同じ行動をとれるかはわからない。また、防災について考える上で過去の災害を風化させずそこから教訓を得たり、今後に活かしていく必要がある。しかし、そこまで発展させることが難しい点が防災教育の課題であると考える。この課題を克服するきっかけとして学校現場だけでなく地域内でも防災について考える機会を提供した本事業には意義があると考える。また、プログラムの開発を通して、防災について考えたことや話し合ったことを他の世代に波及していくためには、何をどのように伝えたら良いのかについて考えを深めていくことができた。

参加者の感想は、以下の通りである。

・改めて防災についてゆっくり考え直す機会になった。

・他の人が受けた防災教育や他の人が考える防災等についての考えを聞くことができて良かった。

・様々な人と話し合うことで自身の価値観を広げることができた。　　等

（様式第８号）

４．今後の課題と展望
本事業の課題と展望は、主に２点である。 第一は、防災プログラム開発イベントの参加者を十分に確保することができなかったことである。今回は、イベントに参加した数人の意見をもとにプログラムの開発を行った。参加者を増やすことで様々な考えを反映されたプログラムを開発することができると考える。また、プログラムを開発する際には参加者の経験等を活かした内容構成となっているが、新規性の薄いものであった。その為、「岡山県・岡山市で必要となる防災教育」などといった新規性や特色を更に現わせた防災プログラムの開発を目指していきた。 第二は、開発したプログラムを実施できなかったという点である。今回は、社会状況を踏まえた上で子どもたちを集めたプログラムの実施は行わなかった。そのため、本プログラムの成果や課題点が曖昧な状態である。現状で完成しているプログラムの内容で満足せず、更に良くするには何が必要か。また、地域社会と連携をしたプログラムを目指して内容の再検討を行い、実践したい。実践後は、振り返りと分析を行い更にプログラムの再検討を行うなどして継続的に防災教育について考えるツールの一つとなればと考える。